

| | | | |
|---------|---------------|-------------------|--|
| 科目担当者氏名 | | 科目担当者連絡先（メールアドレス） | |
| 佐藤 正晴 | | | |
| 連絡責任者氏名 | | 科目設置機関名 | |
| 石原 英樹 | | 明治学院大学 社会学部 社会学科 | |
| 授業科目名 | 科目認定番号 | 受講者数 | |
| 社会調査実習 | MJGa-150801-0 | 15人 | |

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

この社会調査実習では、春学期に伊藤守・藤田真文編著『テレビジョン・ポリフォニー』（世界思想社）を輪読と発表を行い、テレビ番組について調査研究をする基本を学んだ。

つぎに、夏休みを利用して、「メディアとパブリシティ」というテーマの下に、テレビ局の夏のイベントの見学を行った。秋学期には、10月のクールズのテレビ番組の内容分析と考察を行った。履修者の希望でフジテレビの「キスマイブサイク」、フジテレビの「関ジャニ クロニクル」、日本テレビの「ルパン三世」を選択した。最初は、作業の手際にやや差があるようであったが、グループ作業であったためにうまくフォローしあっていたように思う。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

メディア・スタディーズ - テレビ番組の内容分析とコミュニケーション

2. 調査の内容／概要：

質的データの分析法、内容分析、ドキュメント分析といった初級の質的な分析に加え、調査の企画、調査項目の設定、質問文の作成、対象者の設定から集計、分析、報告書の作成までの社会調査の全過程を学習する

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

題材としてはテレビ番組を取り上げた。テレビ番組の内容はメディアであるに留まらず、まさに現代社会の縮図であると考えられる。テレビ番組と視聴者の関係を考えることは、大衆文化研究そのものであると思われる。

4. 主な調査項目：

春学期は、テレビ番組の内容分析法のおさらいを全員で分担して実践してみた。秋学期には、グループごとに内容分析をする番組を選択して実践してみた。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

テレビ番組を視聴するたびに分担して放送回ごとにスクリプト（プロット）を立ち上げた。夏休み期間には、メディアに関するフィールドワークとしてテレビに関連した実地調査を行い、テレビ番組制作・テレビ番組内容・視聴者の相関関係の3点について考察した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

全員で年間を通して、テレビ番組分析の方法論を勉強した。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

テレビ局によって、メディア・イベントのオリジナリティと共通点の両方が存在している。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

テレビ番組の内容分析と考察

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

ゲストタレントのキャスティングの重要性。CMの導入の仕方による視聴者のライフスタイルと広告効果との関係。

10. 報告書刊行の予定と概要：

『社会調査実習報告書 Vol.32』2016年3月発行。